

事業再評価調書

事業名	大規模特定砂防等事業(地すべり)		地区名	木浦原		所在地	佐世保市世知原町																																																									
評価年度	令和6年度		事業主体	長崎県		担当部課名	土木部砂防課																																																									
事業概要	(1)事業目的 当地区は昭和26年に地すべり現象が発生した後、顕著な地すべり活動はなかったが、平成30年7月豪雨による地すべりが発生し、災害関連緊急地すべり対策事業による対策工に加えて、隣接斜面の対策が必要と判断されたことから本事業に着手したものである。令和元年度より調査観測を実施しているが、当地区の斜面末端部には二次緊急輸送路に指定されている主要地方道佐世保日野松浦線が位置しているほか、人家も存在し、万一土塊が下流へ流下した場合その被害は甚大なものと予想されることから、地すべり対策事業を継続し、早期に人命・人家等の保護を図るものである。																																																															
	(2)主な事業内容 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">当初</td> <td style="text-align: center;">変更</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td>集水井工</td> <td style="text-align: center;">N=3基 L= 34m</td> <td style="text-align: center;">N=3基 L= 33.5m</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td>集水ボーリング工</td> <td style="text-align: center;">N=58本 L= 2415m</td> <td style="text-align: center;">N=45本 L= 2080.0m</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td>排水ボーリング工</td> <td style="text-align: center;">N=3本 L= 150m</td> <td style="text-align: center;">N=3本 L= 116.2m</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td>横ボーリング工</td> <td style="text-align: center;">N=40本 L= 1480m</td> <td style="text-align: center;">N=38本 L= 755.0m</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td>杭打工</td> <td style="text-align: center;">N=42本 L= 777m</td> <td style="text-align: center;">N=57本 L= 800.5m</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td>アンカー工</td> <td style="text-align: center;">N=132本 L= 1642m</td> <td style="text-align: center;">N=110本 L= 353.1m</td> <td colspan="5"></td> </tr> </table>									当初	変更						集水井工	N=3基 L= 34m	N=3基 L= 33.5m						集水ボーリング工	N=58本 L= 2415m	N=45本 L= 2080.0m						排水ボーリング工	N=3本 L= 150m	N=3本 L= 116.2m						横ボーリング工	N=40本 L= 1480m	N=38本 L= 755.0m						杭打工	N=42本 L= 777m	N=57本 L= 800.5m						アンカー工	N=132本 L= 1642m	N=110本 L= 353.1m					
		当初	変更																																																													
	集水井工	N=3基 L= 34m	N=3基 L= 33.5m																																																													
	集水ボーリング工	N=58本 L= 2415m	N=45本 L= 2080.0m																																																													
排水ボーリング工	N=3本 L= 150m	N=3本 L= 116.2m																																																														
横ボーリング工	N=40本 L= 1480m	N=38本 L= 755.0m																																																														
杭打工	N=42本 L= 777m	N=57本 L= 800.5m																																																														
アンカー工	N=132本 L= 1642m	N=110本 L= 353.1m																																																														
着工年度	前回再評価年度	計画変更年度	完成予定年度				休止期間																																																									
R1	-	-	着工時	前回再評価時	計変時	再評価	-																																																									
事業費	全体事業費(千円)				前年度まで	進捗率																																																										
	着工時	前回再評価時	計画変更	再評価時	(千円)	(%)																																																										
	650,000	-	-	840,000	541,000	64.40																																																										
事業の進捗	(1)整備効果の発現状況(供用開始など) 平成30年7月豪雨による地すべりについては、災害関連緊急地すべり対策事業により、横ボーリング工及びアンカー工による対策が実施され、地下水位の低下など一定の効果が発現している。現在はCブロックの対策工を実施し、地すべりブロックの安定を図っていく予定である。																																																															
	(2)未着工及び工事遅延等の理由及び解決の見通し 平成30年7月豪雨による地すべりについて、災害関連緊急地すべり対策事業により対策工を実施し、平成31年度より隣接斜面の地すべり調査・観測を実施した。 調査・観測の結果により、抑止工のアンカー工を杭工へ変更する必要が生じたため、工期を3年延長する。																																																															
	(3)関連事業の整備状況 佐世保市地域防災計画において、「木浦原地区地すべり」が位置付けられている。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">評価</td> <td style="text-align: center;">AA</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> </tr> </table>								評価	AA	A	B	C																																																			
評価	AA	A	B	C																																																												
社会・経済等の情勢及びその状況変化	(1)地元(受益者、市町村等)の意向 地元の要望が強く、協力的である。																																																															
	(2)自然や生活環境保全の観点で特記すべき事項 特になし																																																															
	(3)事業が地域に及ぼす効果 地すべり地直下の保全対象として県道・市道及び人家が位置しており、これらを保全する事により地域の経済活動に効果を発揮する。																																																															
	(4)事業に関連する評価・指標等 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>前回評価時</th> <th>再評価時</th> <th>評価</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">必要性</td> <td>受益面積</td> <td style="text-align: center;">40.83ha</td> <td style="text-align: center;">40.83ha</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>受益戸数</td> <td style="text-align: center;">21</td> <td style="text-align: center;">21</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">重要性</td> <td>地元要望の有無</td> <td style="text-align: center;">有</td> <td style="text-align: center;">有</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">緊急性</td> <td>緊急度合</td> <td style="text-align: center;">県道</td> <td style="text-align: center;">県道</td> <td style="text-align: center;">高</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">経済性</td> <td>投資効果</td> <td style="text-align: center;">1.47</td> <td style="text-align: center;">1.16</td> <td style="text-align: center;">中</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										前回評価時	再評価時	評価	備考	必要性	受益面積	40.83ha	40.83ha	○		受益戸数	21	21	○		重要性	地元要望の有無	有	有	○		緊急性	緊急度合	県道	県道	高		経済性	投資効果	1.47	1.16	中																						
			前回評価時	再評価時	評価	備考																																																										
必要性	受益面積	40.83ha	40.83ha	○																																																												
	受益戸数	21	21	○																																																												
重要性	地元要望の有無	有	有	○																																																												
緊急性	緊急度合	県道	県道	高																																																												
経済性	投資効果	1.47	1.16	中																																																												
評価 AA ・ A ・ B ・ C																																																																
[土木部としての総合評価と対応方針]																																																																
総合評価	事業継続		事業見直し継続	休止	中止																																																											
総合評価に係るコメント																																																																

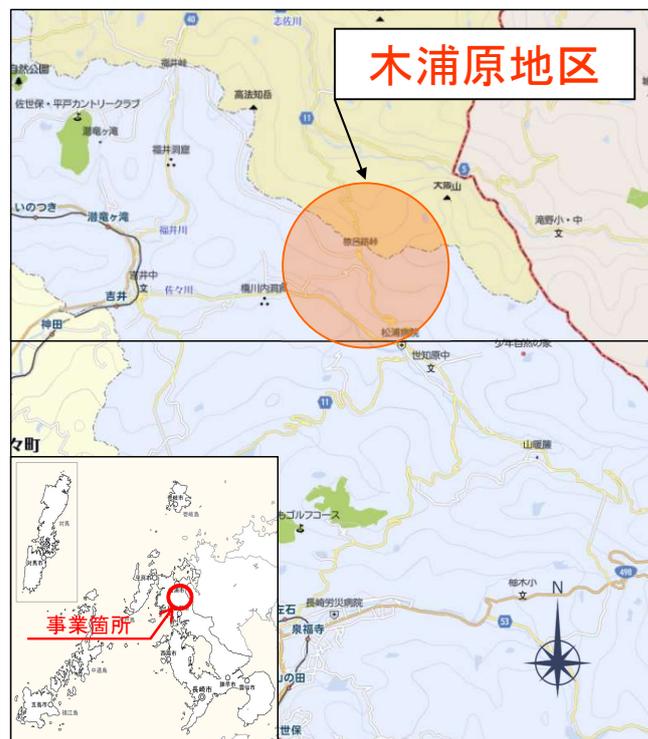
令和6年度 第2回 長崎県公共事業評価監視委員会

再評価対象事業

砂防-4 大規模特定砂防等事業
(地すべり)
きうらばる
木浦原地区

事業主体 長崎県

再評価の理由 事業採択後5年経過②



1

1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	備考
		着工	完了			
当初 (R1新規) (補正前倒し)	-	H31 (補正)	R6	6.5	1.47	【事業概要】 集水井工 3基 集水ボーリング工 58本 排水ボーリング工 3本 横ボーリング工 52本 杭打工 42本 アンカー工 132本
補助事業採択 (R2)	その他	H31 (補正)	R6	6.5	1.47	【事業概要】 集水井工 3基 集水ボーリング工 58本 排水ボーリング工 3本 横ボーリング工 52本 杭打工 42本 アンカー工 132本
土木部内報告 (R5)	事業採択後5年経過時 の土木部内報告 (地すべり対策事業)	H31 (補正)	R9	8.2	1.30	【事業概要】 集水井工 3基 集水ボーリング工 58本 排水ボーリング工 3本 横ボーリング工 52本 杭打工 42本 アンカー工 132本
第3回審議 (R6年度)	補助事業採択後 5年経過	H31 (補正)	R9	8.4	1.16	【事業概要】 集水井工 3基 集水ボーリング工 45本 排水ボーリング工 3本 横ボーリング工 38本 杭打工 57本 アンカー工 110本

2

2. 目的・事業概要・これまでの経緯

◆目的

当地区は平成30年7月に発生した地すべりについて、災害関連緊急地すべり対策事業にて対策工を実施し、隣接斜面についても、災関フォローとして、令和元年度より事業を開始したもので、抑制工と抑止工の対策工を実施し、民生の安定を図ることを目的としている。

◆事業概要

集水井工 3基
集水ボーリング工 45本
排水ボーリング工 3本
横ボーリング工 38本
杭打工 57本
アンカー工 110本

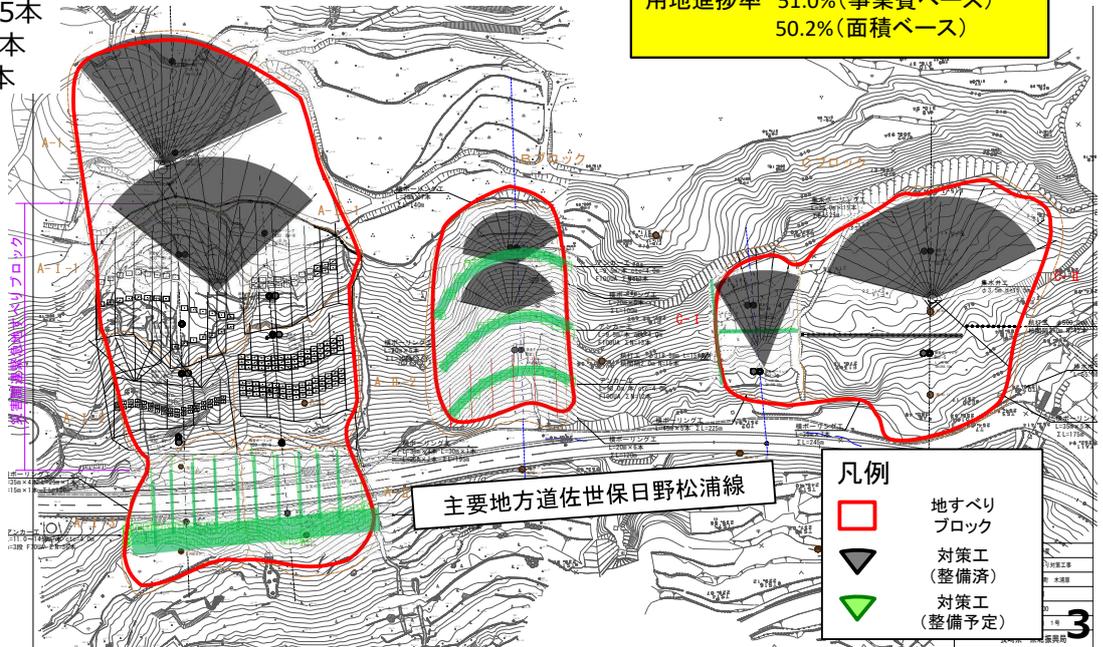
事業進捗率 64.4%(事業費ベース)
用地進捗率 51.0%(事業費ベース)
50.2%(面積ベース)

◆事業経過

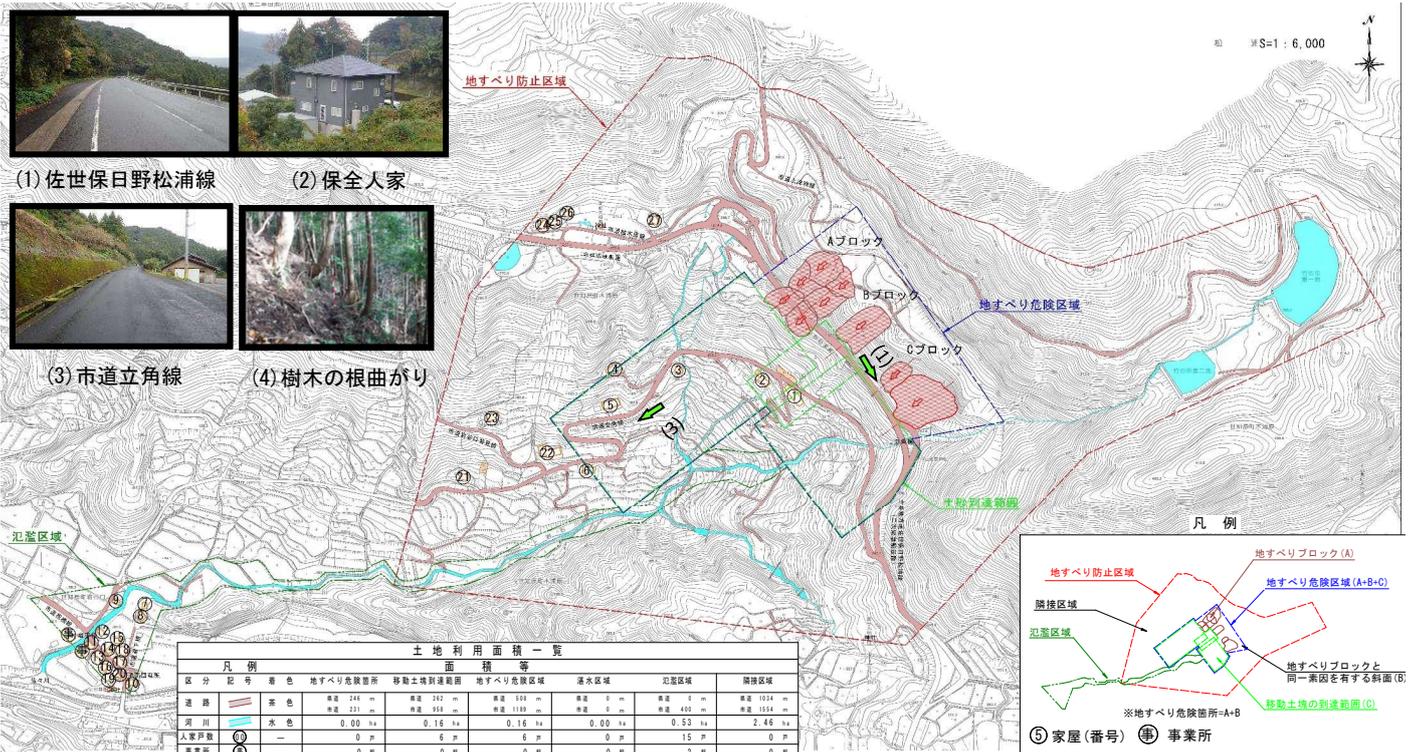
事業開始 R1～
用地開始 R2～
工事開始 R2～

◆保全対象

家屋N=21戸
事業所N=2軒
県道L=468m
市道L=2,428m
市消防団詰所N=1棟



3. 事業の効果・必要性



地すべりブロック内は、地すべりによるものと思われる根曲がりした樹木や湧水が確認されたりしている。また保全対象として県道や市道が含まれることから、地すべり災害が発生した場合の被害は甚大なものと予想されるため、地すべり対策が必要である。

4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

◆事業費の見直し 6.5億円(当初) → 8.4億円(変更)

○地質調査・観測の結果、対策工をアンカー工から杭打工へ変更。

建設資材単価・労務費 増加量一覧表

○労務費や建設資材価格の上昇により事業費が増加。

対策工 R1からR6比較	
鋼管杭	30%増
建設資材	10%増
労務費	15%増

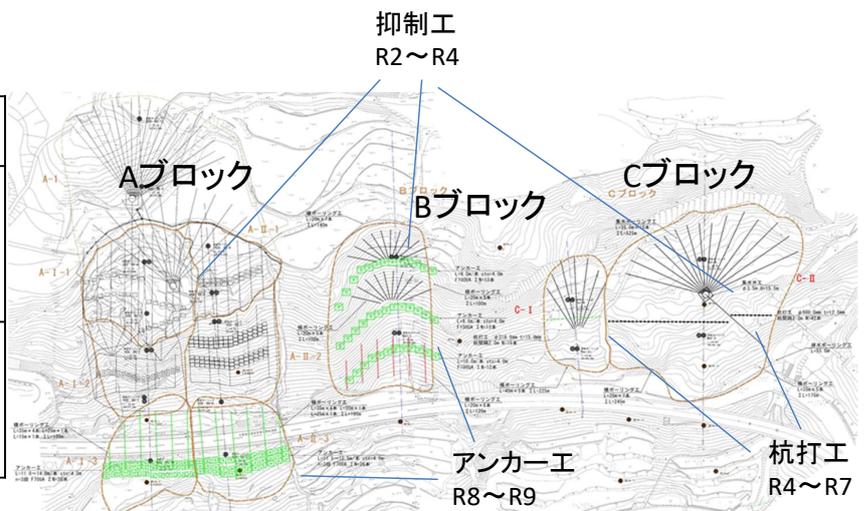
変更内容	増減額	主な増減理由
対策工の変更	+0.7億円	地質調査・観測の結果により対策工をアンカー工から杭打工に変更
労務費・資材価格の増	+1.2億円	労務費や資材価格の増
合計	+1.9億円	

5

4. 事業の進捗状況(事業期間の見直し)

◆完了年度 令和6年度(当初)→令和9年度(変更)

変更内容	増減期間	主な増減理由
対策工の変更	1.0年	地質調査・観測の結果より、対策工の設計(対策位置・工法等)の変更。
境界確定の遅延	2.0年	林地の境界確認において、地権者同士の意見がまとまらず、確定に時間を要した。



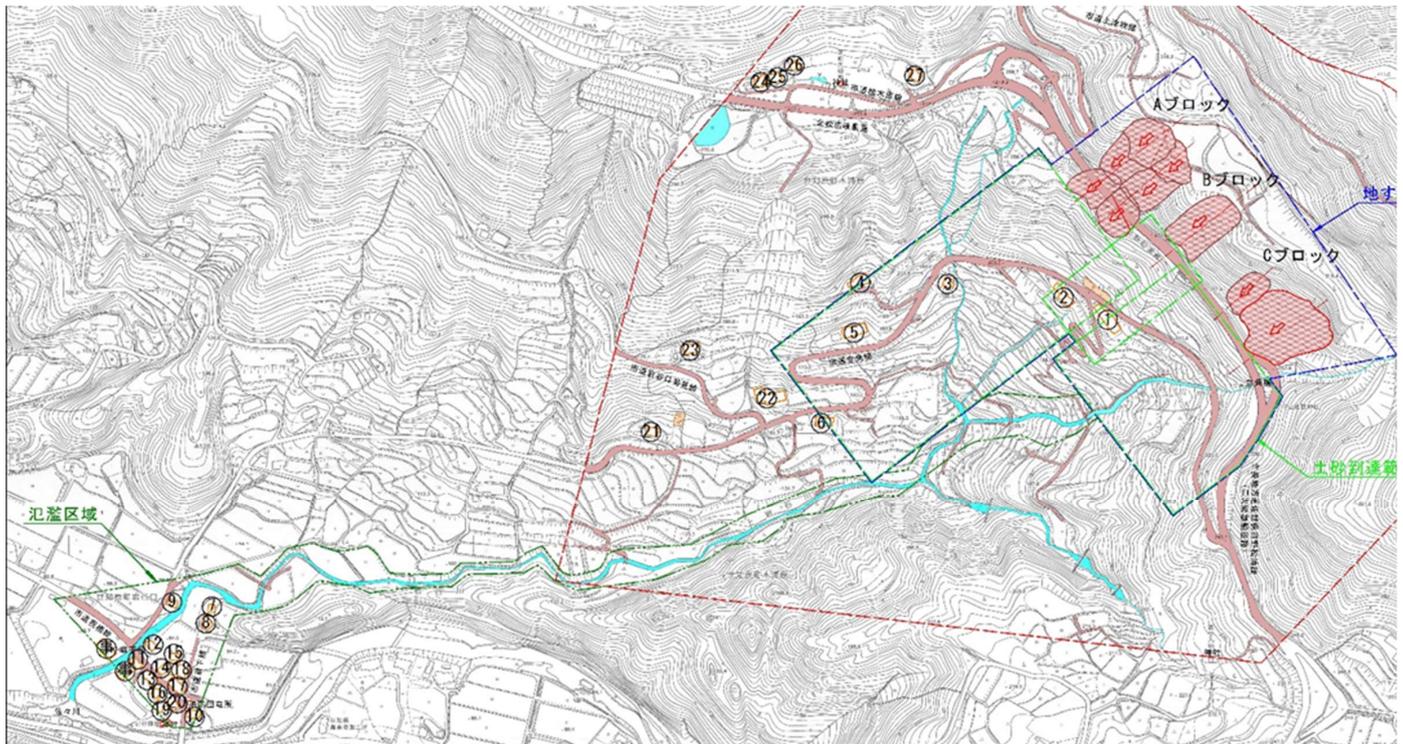
工程表

審議経過	概要	H31(R1)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	増減理由	増減期間(年度)
当初(R1年度)	測量調査設計 用地交渉 工事	■	■	■	■	■	■					
第1回審議(R6年度)	測量調査設計 用地交渉 工事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	対策工の変更設計 境界確定の遅延	+1.0 +2.0

6

5. 社会経済情勢等の変化

- ・ 保全対象人家の減少なし(27戸)



7

6. 事業の投資効果

【B/C】1.47(前回) → 1.16(現行)

◆ 費用対効果(B/C)

項目	前回評価 (令和2年度)	今回評価 (令和6年度)
残事業	-	5.47 = 12.52億円 / 2.29億円
全事業	1.47 = 15.88億円 / 10.83億円	1.16 = 16.05億円 / 13.81億円

〔費用〕

- ・ 地すべり防止施設整備に要する事業費(工事費、用地費)及び維持管理に要する費用

〔便益〕

- ・ 地すべり防止施設を整備することにより、人家・公共施設等が保全されることで発現する便益

〔プラス要因〕

- ・ 特になし。

〔マイナス要因〕

- ・ 事業費の増(対策工の変更・労務費・資材価格の増)
- ・ 工期の延長(対策工の変更・境界確定の遅延)

〔その他要因〕

- ・ 特になし。

8

7. 対応方針(原案)

- ◆ 保全対象の重要性、災害時の地域経済への影響を考慮した上でも事業継続の必要性がある。
- ◆ 用地進捗率は51%であり、工事にも着手しており、完了見通しも立っているため、早期に整備効果発現の見込みがある。
- ◆ 地元からも早急な地すべり対策事業の概成が望まれている。
- ◆ 事業費の増額及び工期の延長はあるものの、費用対効果が十分見込まれる。

